

人工林 — クロマツ —

空から見た庄内砂丘です。濃い緑色の部分がクロマツ林です。このクロマツはすべて人が植えたものです。約300年前、ここは草木のない砂山でした。そこから、人々は苦勞してクロマツを植え続けてきたのです。

昔、庄内砂丘は、自然の森林におおわれていたといわれていますが、戦国時代、その森林が失われ、砂漠のようになりました。強風に舞い上がる砂は、田畑や川を埋め、洪水もひんぱんにおきました。苦しんだ人々は、きびしい自然にいとみ、長い年月をかけて植林を続け、今では南北に約33km、面積では2,500haもの美しいクロマツ林ができたのです。

クロマツは、栄養の少ない土や、潮風、強風に耐性があることから、砂丘に植える樹木として適しています。クロマツ林は風下側で風を和らげる効果があり、潮風と飛砂から人々の生活と、日本有数の米の産地である庄内平野を守っています。

クロマツの木と葉

クロマツは、栄養の少ない土や、潮風、強風に耐性があることから、砂丘に植える樹木として適しています。

クロマツ林は風下側で風を和らげる効果があり、潮風と飛砂から人々の生活と、日本有数の米の産地である庄内平野を守っています。



をね ねはらちくまら にははまうまつけのす
曾根原六蔵 西浜植付之図
(酒田市立資料館蔵)

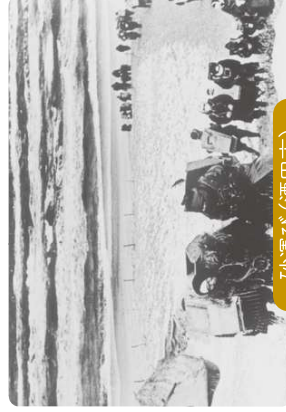
遊佐の西浜での植林の様子(江戸時代)



1960年5月23日 山形新聞

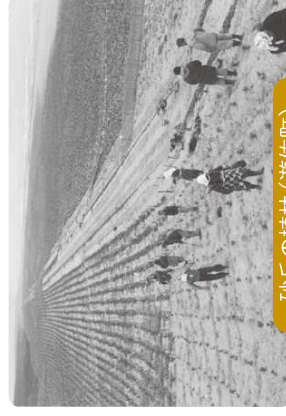
家の中で傘をさしての食事の様子

1960年頃の庄内砂丘の風景



砂運び(酒田市)
(浜中民具資料館蔵)

砂で埋まった家を総出で掘り、砂箱を背負い浜に運ぶ



砂丘の植林(遊佐町)
(庄内森林管理署蔵)

広大な砂丘にクロマツが1本1本植えられた

庄内砂丘のクロマツ林について調べよう！

- ・クロマツ林になる前は、庄内砂丘はどんな場所だったのだろう。
- ・なぜ、クロマツを植えなければならなかったのだろう。
- ・クロマツを植えたリリーダーの人を調べてみよう。
- ・クロマツ林は地域にとって、どのような存在なのだろう。